

想いの力を、
救う力に。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



日本赤十字社の活動は、
皆さまの寄付によって支えられています。

赤十字 寄付

- 日本赤十字社
- 日本赤十字社 @JRCS_PR
- japaneseredcross_official
- JapaneseRedCrossPR



赤十字は、
動いてる！
with You

日本赤十字社に
ご支援いただき、
まことにありがとうございます。

昨年も世界では災害や武力紛争などが絶えない一年でした。

私たちは、苦しんでいる人に寄り添い、

世界の赤十字・赤新月社の仲間と活動を続けてきました。

大阪・関西万博の「国際赤十字・赤新月運動館」には、

約31万人が来館され、「人間を救うのは、人間だ。」

というスローガンに多くの方々から共感いただきました。

日本赤十字社は2027年に創立150周年を迎えます。

「いのちと健康、尊厳を守る」という使命を胸に、

皆さまから託された思いを実現し、

苦しんでいる人を救う活動を続けてまいります。

日本赤十字社 社長 清 家 篤

赤十字をはじめて知る方へ

Q. 災害が起こった時、
赤十字って何をしているの？

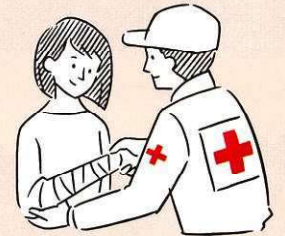


A. 赤十字は、国内外の**災害(地震や台風など)現場に駆けつけ、いのちを救うための医療や看護の支援**を行っています。

また、普段は災害に備えた訓練や地域の防災教育などの啓発活動にも取り組んでいます。

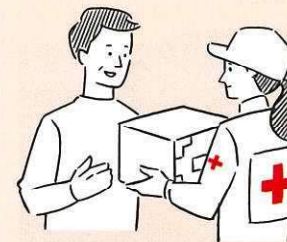
Q. 災害が起こった時、
誰が活動をしているの？

A. 普段は赤十字の病院に勤めている**医師・看護師・助産師・薬剤師**をはじめ、**事務職員やボランティア**も活動しています。



Q. 赤十字は税金で
活動しているのですか？

A. いいえ、赤十字の活動のほとんどが**皆さまからのご寄付により支えられており**、救護班の育成や救援物資をお配りするための費用に役立てられています。





赤十字の活動

国内災害救護活動 ▶ P5

地域での防災教育、救護訓練や救援物資の整備など、災害へ備える環境や体制を整え、災害時には現地へ駆けつけ救護活動を実施します。



国際活動 ▶ P7

海外で発生した災害や紛争、感染症等で苦しんでいる人びとを救うため、緊急救援や復興支援、予防活動に取り組めます。

想いの力を、救う力に。

災害や紛争、貧困や感染症で
傷つき苦しんでいる人をなんとしても救いたい。

私たちが動かしているのは、
この強い想いなんだ。

あなたの想いを赤十字と一緒に、
救う力に変えませんか。

**赤十字は、
動いてる!**
with You

ボランティアなどの 育成 ▶ P8

全国の赤十字ボランティアや青少年
赤十字メンバーの育成を行います。



救急法などの 普及 ▶ P8

身近な人を救うための知識と技術
の普及を行います。

あなたのご寄付で実現した
国内災害救護活動



岩手県大船渡市における大規模火災

2025年2月、岩手県大船渡市で林野火災が発生し広範囲が焼失。発災当日から毛布や緊急セットなど救援物資を届け、職員と赤十字ボランティアが活動を開始しました。

救護班は、関係機関と連携しながら避難所を巡回し、健康相談やニーズ調査を実施。こころのケア班が心理的・社会的なニーズに対応し、赤十字ボランティアは避難所の衛生環境改善や炊き出しも行いました。

主な実績

[職員の派遣]	[救援物資の配布]
救護班……………2班	毛布……………1,500枚
こころのケア班……………3班	タオルケット……………1,100枚
連絡調整員……………25名	バスタオル……………700枚
[赤十字ボランティアの活動]	緊急セット……………150セット
救援物資の搬送……………7名	安眠セット……………924セット
避難所環境改善活動……………7名	段ボールベッド……………161台
(こころのケア班帯同)	パーテーション……………200台
避難所での炊き出し……………18名	屋内テント……………140張
	多目的テント……………4張



男鹿半島(秋田県)での災害救護訓練

令和6年能登半島地震では、道路の寸断により救援・支援が困難を極めました。「半島災害」は、陸路の途絶にとどまらず、海に囲まれた地理的な制約から通信・物流・ライフラインの復旧に多大な時間を要し、地域そのものが孤立するというリスクを抱えています。

この教訓を踏まえ、男鹿半島での地震・津波を想定した、国や約30の関係団体との大規模訓練に参加するとともに、赤十字救護班、地元奉仕団や保健師ら約150人が参加する訓練を実施し、災害対応能力の向上を図りました。

[実際の訓練の様子]
秋田県孤立集落状況把握・支援訓練/
第1ブロック支部合同災害救護訓練

(訓練動画リンク)



赤十字防災セミナー

将来発生が予測されている大規模災害から人びとのいのちを守るためには、地域コミュニティにおける「自助」と「共助」の力を高める防災教育が極めて重要です。赤十字防災セミナーは、地域住民の方々、自らのいのちを守り、被災に伴う心身の苦痛を軽減することを目指し、全国の都道府県支部で開催しています。

あなたのご寄付で実現した 国際活動



中東人道危機救援

中東地域は、パレスチナやレバノン、シリア、イエメン、イラクなど紛争の影響が続く国々を抱え、インフラの崩壊や貧困、避難民など複合的な人道危機に直面しています。日本赤十字社は、現地の赤十字社、赤新月社などと協力し、水や食料などの物資を届けたり、医療施設における人材育成等の支援を行うほか、国際人道法の遵守を働きかけています。



ミャンマー地震救援

2025年3月28日、ミャンマーで大地震が発生し、130万人以上の方が被災しました。武力衝突や頻発する自然災害で悪化していた状況は地震によりさらに深刻化しました。ミャンマー赤十字社は地震直後から救援にあたり、日本赤十字社は資金援助や救援物資の支援のほか、医療チームを派遣し現地の保健医療を支えました。



ルワンダ 気候変動等に対する 住民のレジリエンス強化

ルワンダは1994年の大虐殺を乗り越え発展を遂げた国ですが、農村部では依然として、気候変動による災害被害や安全な水の確保、栄養不足など深刻な問題を抱えています。日本赤十字社はルワンダ赤十字社と協力し、給水場の整備や栄養指導、家庭菜園の普及などを通じ、住民が自ら暮らしを改善し将来の危機に備える力を向上できるよう支援しています。

あなたのご寄付で実現した ボランティアの育成/救急法(応急手当)などの普及



被災者支援にあたる 赤十字ボランティア

大雨で被災した地域の赤十字ボランティアが、一人暮らしの高齢者への避難呼びかけや誘導、炊き出し、災害ボランティアセンター運営等の被災者支援を行ったほか、ボランティアへの熱中症予防啓発や健康観察を行いました。



いのちを守り、 思いやりの輪を広げる 青少年赤十字

青少年赤十字は、いのちと健康を大切に、思いやりの心をもって地域社会や世界に関わる子どもを育成しています。防災講座や非常食づくり、応急手当の体験等を通じ、子どもと大人が一体となって地域防災力の向上にも取り組んでいます。



万が一の時に備える 赤十字講習

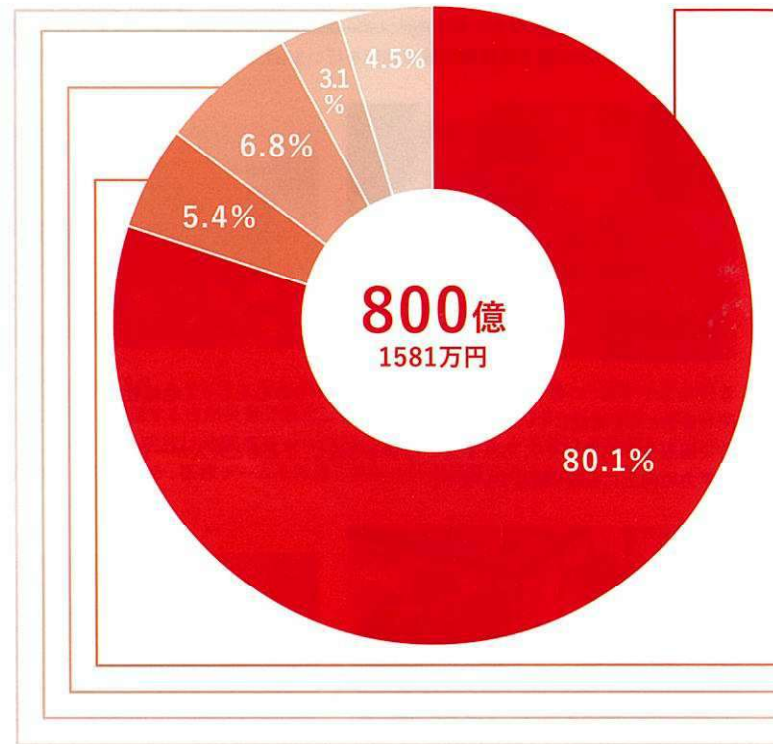
1926年に救急法を含む「衛生講習会」を開始し、赤十字講習は2026年で100年を迎えました。現在までに、2071万人以上*の方が受講。戦争や災害救護で蓄積した救命のノウハウを一般市民に普及することから始まった講習は、今もなお一人でも多くのいのちを救うことを目的に続いています。

※2025年3月31日時点

ご寄付の活かし方

令和6年度 歳出(一般会計)の報告

国内外で苦しんでいる
人びとを救うため、
皆さまから託されたご寄付を
活用しています。



※数値の切り捨てを行っている関係上、合算した数値は100%になりません。

令和6年度の決算概要(令和6年度業務報告書)



苦しんでいる人びとを救うための費用

640億9976万5千円 (災害義援金321億7941万5千円を含む)

※災害義援金は義援金配分委員会へ全額送金済みです。

国内外における救護活動

国内災害対応や国際活動、
復興支援などに使われた費用です。



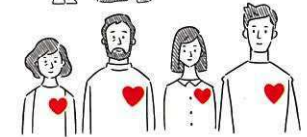
防災活動

防災イベント・セミナーなどに
使われた費用です。



ボランティアの育成

ボランティアの育成や活動に
使われた費用です。



広報活動のための費用 | 43億339万4千円

広報・普及活動

会員への参加呼びかけや広報活動、寄付の募集のために
使われた費用です。

事務のための費用 | 54億7859万7千円

事務管理

支部、病院、社会福祉施設の事務局・本部機能として、施設負担分を
除いた事務経費に使われた費用です。

本社送納金 | 25億666万9千円

支部から本社への送納金(本社送納金支出)

その他の費用 | 36億2738万円

次年度の活動

次年度当初の活動のために使われる資金です。

あなたのご寄付でできること



皆さまからのご支援は、赤十字のさまざまな活動や救援物資の購入などにカタチを変えて、苦しんでいる人びとに寄り添います。

3,000円 ▶ 毛布 / 1人分

避難所での生活に不可欠な「毛布」を1人分備えることができます。



4,000円 ▶ 安眠セット / 1人分

避難先での生活を少しでも快適に過ごしていただけるよう、キャンピングマット、枕、アイマスクなどが一式収納された「安眠セット」を1人分備えることができます。



5,000円 ▶ 緊急セット / 1セット 4人分

避難先での生活にあると便利なマスク、ウエットティッシュ、ラジオ、懐中電灯、歯ブラシなどが一式収納された「緊急セット」を1セット(4人分)備えることができます。



10,000円 ▶ 心肺蘇生トレーニングキット / 5人分

簡易的に心肺蘇生を体験することができるトレーニングキットを整備することで、大人数での講習を実施することができます。



62,000円 ▶ 心肺蘇生訓練人形 / 1体

72,000円 ▶ AEDトレーナー / 1台

日本では、6分に1人が心臓突然死で亡くなっています。救急隊に引き継ぐまでの間に、心肺蘇生とAEDを用いた一次救命処置を行うことで、より多くの命を救うことができます。突然の心停止に陥った人を救う「心肺蘇生」・「AED」を学ぶための各種資材を準備することができます。



被災された方の声

何も持ってこれなかったので、日赤さんから毛布をいただけて、すごくうれしいです。避難所の皆さん、喜んでると思いますよ、皆さん下に(日赤の毛布を)敷いてらっしゃるでしょう。これ一番最初にいただいて、助かってます。

一緒なら、救える

日本赤十字社へのご寄付の方法

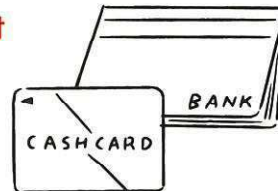
クレジットカードや Amazon Pay、PayPayで寄付

Webサイトからの登録により、クレジットカードやAmazon Pay、PayPayでご寄付いただけます。ご寄付は、毎年・毎月・今回のみからお選びいただけます。



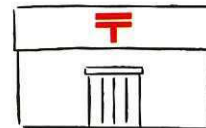
郵便局・銀行の口座振替で寄付

ご希望の口座から自動引き落としでご寄付いただけます。お申込みには「会員加入申込書」をお送りください。ご寄付は毎年・毎月からお選びいただけます。



郵便局・銀行の口座への寄付

日本赤十字社では郵便局（ゆうちょ銀行）や銀行などで寄付専用口座を開設しております。



お近くの日本赤十字社窓口で寄付

お住まいの都道府県にある全国47箇所の日本赤十字社支部窓口でもご寄付を受け付けております。また、自治会、町内会などを通じたご寄付についても、地域の防災・減災活動やボランティア育成などに活用しています。



スマホアプリ J-Coin Pay「ぼちっと募金」を使って寄付

みずほ銀行や全国150以上の金融機関で口座をお持ちの方は、スマホ決済アプリ「J-Coin Pay」からご寄付いただけます。



カードのポイントで寄付

クレジットカードでの買い物や、各種サービスでカードに付与されるさまざまなポイントを利用して、ご寄付いただけます。



コンビニで寄付

コンビニエンスストアにある情報端末（ローソンマルチメディア端末「Loppi」、ファミリーマート「マルチコピー機募金受付サービス」）や、セブンイレブンなどにある全国の「セブン銀行ATM」で、ご寄付いただけます。

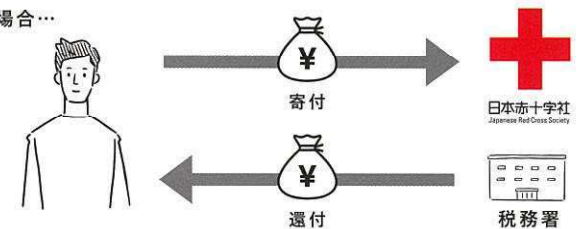


寄付方法の詳細は、日本赤十字社Webサイト「寄付する」のページをご覧ください。

税制上の優遇措置

日本赤十字社へのご寄付は確定申告することで個人の所得税や、企業の法人税の優遇措置を受けられます。

個人の場合…



所得控除の計算式

$$A: \text{年間所得総額} - B: (\text{寄付金額}^{\ast} - 2,000\text{円}) = C: \text{所得税課税対象額}$$

※ただし、寄付金額は年間所得総額の40%が上限となります。

表彰制度のご案内

活動資金にご協力いただいた場合は、表彰制度を設けています。詳しくは、日本赤十字社のホームページ又は、各都道府県支部までお問い合わせください。

※寄付などの協際に際して取得する個人情報は、日本赤十字社の広報活動や活動資金などの募集のためにのみ使用します。詳しくは、日本赤十字社Webサイトをご確認ください。